



志賀稔宗議員

農林水産業の緊急対策を伺う

問 燃油、肥料、飼料高騰をふまえて生産コストに着目した経営安定、技術確立対策を伺う。
答 栽培体系や施肥体系の改善による資材等の削減、施設園芸での二重カーテン等の省エネ対策等、生産コスト低減の技術体系確立に向けJAや県と連携して推進する。



▲稲刈り作業

問 飼料価格高騰により、生産コストが増大し畜産農家経営が圧迫されている。自給飼料の増産及び安定経営対策を

伺う。
答 飼料自給率向上のため耕畜連携による飼料用米や稲発酵粗飼料生産と利用拡大を支援したい。
問 粗飼料増産は機械設備、高齢化、労働力不足等があり容易ではない。緊急的に飼料基金制度はじめ、現在の支援制度の充実強化が重要である。
答 JAからの要請もあり

緊急対策として極力予算化に向け努力する。
問 ほ場、用排水路、農道等の生産基盤整備促進のために適正な公費負担が重要であるが進め方を伺う。
答 道路、幹線排水路等公益性の高い部分は、三区統一基準で公共性の関係判断し、極力公共負担を高くするよう調整する。



西 銃治議員

牛島に温泉主体の施設建設を

問 地元住民は早期実現を望んでいる。地元との合意不調により牛島整備事業申請断念した。市長の現在の心境は。
答 地元要望に添った温泉を主体とした施設を新たな交付金活用に見直し、牛島検討委員会も立上げ進めた。しかし地元との合意に達せず断念せざるを得ないことは残念である。
問 牛島地区は自然環境に

恵まれ、観光地に温泉がなかったら砂漠にオアシスがなかった同様にあります。地元との話し合いを早急に立上げ、是非取組んでいただきたいが市長の考えは。
答 公共施設の枠の中で、運用の面で地元の要望を可能な限り汲み上げていくスタンスを持っていった。地元の方々の理解がないと市の予算も使う



▲牛島地区

もので難しい面もあるが、更に協議を重ねて、せつかく温泉を掘ってあるので一日も早く生かすよう取り組みを関係者と進める。
問 花と緑の公園 施設などに、雇用拡大と地域経済効果に繋がる通年型観光交流事業として、民間による「仮称」花と緑の公園 施設などに、企業誘致と同じような支援制度を設置する考えがあるか伺う。
答 交流人口なり、雇用人口



小川尚一議員

環境と観光交流と雇用拡大の施策

問 有機農業推進法施行後の本市の「有機農業の里」づくりと有機農業推進の具体的な取り組みについて伺う。
答 堆肥を用いた土づくりや化学合成農薬の削減などを通じて、安全で良質な農産物の生産拡大と産地ブランド化の確立を目指す。具体的には、未利用有機資源の活用を進めるため、堆肥センターの設置

や耕畜連携による堆肥の利活用を図り、県・JAと連携して有機農業への参入促進や技術指導、消費者の理解を深めるPRや交流会等の普及啓発に取り組む。
問 (仮称)南相馬市有機農業推進協議会の立ち上げ進捗は。
答 有機稲作研究会から申し入れもあり、核となる組織として推進協議会に移行でき

るよう取り組みを関係者と進める。
問 雇用拡大と地域経済効果に繋がる通年型観光交流事業として、民間による「仮称」花と緑の公園 施設などに、企業誘致と同じような支援制度を設置する考えがあるか伺う。
答 交流人口なり、雇用人口



▲ハローワーク原町

拡大に繋がる新たな制度として、支援策について検討したい。



太田淳一議員

つなげよう、愛するまち

問 6月に閣議決定された「定住自立圏構想」(全ての市町村にフルセットの生活機能を整備するのは困難であることから、中心市に圏域全体に必要な都市機能を集約的に整備し、周辺地域と連携・交流していくという考え方に基いた構想)について、市の考え方を伺う。
答 本構想は、医師不足問

題、雇用確保など、本市が抱える課題に対し有効と考えられることから、先行の実施団体としての可能性を含め、現在総務省と協議を行っている。
問 東京都杉並区との経済交流について、農産物など本市産品の販路消費拡大という視点から、杉並区内商店街にアンテナショップの開設と、杉並区の学校給食に食材を提供す

べきと考えるが、見解を伺う。
答 アンテナショップについて、野馬追の里移住推進委員会や県のサポート事業の助成を受け、平成21年度以降開設の動きがあることから支援を図っていく。学校給食について、本市の農産物を使ってみようことは大変効果があると考えられることから、市内関係団体などと協議し、杉並



▲杉並区での物産販売

区関係機関との協議の場を設けながら今後進めていく。



小林吉久議員

中心市街地の再生について

問 魅力のない所に人は集まらないが、中心市街地の空洞化に見られる街なかの再生について伺う。
答 中心市街地の空洞化は本市だけでなく、モーターリゼーションの進展と消費者の生活様式の変化や郊外型専門店がシフトしたことによる。今後の対策としては、チャレンジショップや屋台村事業を

展開し、街なか賑わいを創出すると共に、中期計画としての中心市街地活性化基本計画を策定し、その中で公共・公営施設の地域間の誘導を図る。
問 鹿島区、小高区の駅前を主とした市街地活性化について、どう対応する考えか伺う。
答 中心市街地の考え方は、原町区の駅通りを中心に80ヘクタールが中心です。鹿島区、



▲街なか風景 (鹿島区)

小高区についても合併して3年目になりますので、市民委員会を軸に進め、鹿島区においては、駅のトイレの水洗化を図りつつ、駅舎を活用しながら、今までと違う姿になる可能性はある。小高区についても、町づくり委員会や地域協議会で議論が盛り上がりつつあるので有効な事業を積極的に支援していく。



櫻井勝延議員

産廃場への市道拡幅申請について

問 市では、どのような必要性と優先性をもって、県への申請を行ったのか伺う。
答 市道管理者として24条協議が整ったということで、県へ道路法24条申請の協議、申請を行ったということです。
問 かなりの部分が市有地です。共栄クリーンが買収したのが全てではない。市が拡張は必要とした理由は何か伺う。



▲陳情状況 (大甕区長会)

答 産廃処分場の搬入路、進入路について、最終的に市道森合小浜線を使うことになった。開発行為の33条に区域外の道路と接続する必要があるので、ときには規定があつて、今の市道では幅員が狭いので歩行者の安全を図るために歩道をつける計画になった。
問 事業者にとって、このままでは認められないから、市

が拡張を認めてやることなのか伺う。
答 市道を開発者が使うので、市道改良を会社が原因者としてやるということです。
問 市が便宜を図って拡張を認めてやるということか伺う。
答 区域外の道路について、開発行為許可の前提条件というか、そういうことです。